

意見の概要及び意見に対する市の考え方（考慮した結果及びその理由）  
 ◆パブリックコメント期間：令和6年6月21日(金)～7月22日(月) 32日間 意見提出件数：75件(名) <延べ意見数：146件>

報告事項② 追加資料

意見書 設問1：生ごみ分別廃止・焼却【賛成：32名】賛成27名、どちらかと言えば賛成5名 <延べ意見数：32件>

No	項目	意見の概要	意見に対する市の考え方 (考慮した結果及びその理由)	意見数 (延べ件数)
1	家事家計・自治会負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ出しの際、水分が漏れない処理を施す等、分別の手間が省けると、家事の負担軽減に繋がる。</li> <li>・ごみ分別をもっと簡略化してほしい。</li> <li>・大半の廃ペットボトルは焼却処分しているなか、分別する意義がわからない。ビンとカンは今通り分別で、生ごみは焼却処分をお願いします。</li> <li>・ごみ出しの際に水分が漏れないよう処理することが手間で、ごみステーションに設置している生ごみ用バケツの清掃等が自治会の負担となっている。</li> <li>・生ごみ分別のために有料である別の小袋（レジ袋）を用意する必要も減ると思われるため焼却には賛成。</li> </ul>	<p>今回の生ごみ焼却は、市の将来にわたる財政運営を考慮した上での判断となりますが、決して環境行政を後退させるものではなく、これまで続けられてきた生ごみ分別から、新たな環境施策に進むための措置となるよう、市民の皆さまのご意見を伺いながら、より良い方策を検討して取り組みます。</p>	12
2	生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、食事の在り方が大きく変わり、ディスカウントストア、コンビニなどで、美味しい惣菜・冷凍物が簡単に手に入る。1人分に小分けした物も売っており、以前のように、野菜の皮を剥いて煮物を作ったりすることなどが若者は勿論、シルバーの方も減った。よって、生ごみ排出量が平成26年に比べて約半減になっている。また、人口が減ったことも拍車をかけていることから、生ごみを焼却しても良いのではないかと考える。</li> </ul>		1
3	ごみ排出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみを分別すると、カラス等の小動物にゴミステーションが荒らされるし、また、生ごみを分けている自治体は非常に少ないと思うので、燃えるごみと一緒にしてほしい。</li> </ul>		1
4	高齢者負担軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑なごみの分別については、高齢の方などにとっては負担となっていることが想定される。今後の高齢者福祉を考えると、簡略化できることは行うべき。</li> </ul>		3
5	コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス資源化センターが老朽化し、維持するために、毎年約1億円も費やしている。また、バイオマス発電の買取制度が2年後には終了することや、そのセンターが全国的に稀であったため処理系列が1系列しかなく、長期間停止して改修を行うことは不可能であること、さらに、新たに処理施設を整備するには約56億円かかり、その施設の年間維持も約1.5億円必要となると、コストがかかりすぎているように感じる。</li> <li>施設を廃止し、浮いた資金で再エネの推進や環境に良い施策に取り組んでほしい。</li> <li>・日田市の20年・30年後の財政状況を考えると、環境施策より子育て施策を最優先すべきと考える。また、植物由来の生ごみを焼却しても、CO<sub>2</sub>はカウントされないのであれば、子どもたちの未来のため、何が重要かしっかり考え取り組んでほしい。</li> </ul>		12
6	コンポスト補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ処理機を各家庭に設置するための補助金を出してほしい。</li> <li>・生ごみ処理機を市民に試しに使わせてみたらどうか。</li> </ul>	<p>生ごみについては、市民の皆様による処理を支援していく考えであり、今後は、家庭での生ごみのコンポスト(堆肥)化を推進するための新たな補助制度等の創設を検討しています。</p>	2
7	今後の対応等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州管内の233自治体のうち、34自治体が分別収集を行っているとのこと。県境を越えた広域的な施設整備の在り方も検討すべき。</li> </ul>	<p>大分県内の広域連携の取組事例としては、大分市の清掃工場に臼杵市・竹田市等から一般廃棄物を受入れしており、今後においては、広域圏構成市にて、新たなごみ処理施設を建設するとお聞きしています。引き続き、広域連携の情報収集に努めていきます。</p>	1

※意見書 設問2,3：コンポスト等の処理ツールについて【賛成32名のうち、29名がコンポストや生ごみ処理機を使用希望(使用済含む)】

意見書 設問1：生ごみ分別廃止・焼却【反対：43名】 反対:39名、どちらかと言えば反対:4名 <延べ意見数：114件>

No	項目	意見の概要	意見に対する市の考え方 (考慮した結果及びその理由)	意見数 (延べ件数)
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分量の多い生ごみ(資源物)を可燃物とすれば、多くの熱量(燃料)を使用することに伴い、温室効果ガスの増加や、消費エネルギー(燃料代)の増加につながり、環境負荷につながるのではないかと。</li> <li>・生ごみ焼却は、環境政策の後退であり、脱炭素社会、SDGsの流れにも逆行するものである。</li> <li>・多くの市民を巻き込んで成立した「環境都市日田」のイメージは、日田市としては「返上」する方向を向いているのか。</li> <li>・環境問題にどのように対峙していくか方向性を示してほしい。</li> <li>・「環境都市日田」を目指してほしい。</li> </ul>	<p>今回の生ごみ焼却は、市の将来にわたる財政運営を考慮した上での判断となります。</p> <p>現在、焼却処理されるごみ質は、高カロリー化が進み、焼却炉内が高温度となるため、炉内に冷却用の水を散布している状況にありますので、生ごみは水切りを行った後も一定の水分があるため、焼却炉内の熱調整の役割も担うこととなります。</p> <p>しかしながら、日田市では、ごみ分別、ごみ減量は循環型社会の形成に必要な取組との考えに変わりはありません。生ごみの焼却処理が新たな環境施策に進むための措置となるよう、市民の皆様のご意見を伺いながら、より良い方策を検討して取組ます。</p>	20
9	環境問題 温室効果ガス増加 消費エネルギー増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの焼却処理は多大な燃料とCO<sub>2</sub>を排出させることとなり、これまで続けてきた環境政策や脱炭素、SDGsの後退となる。</li> <li>・水分を多く含む生ごみを焼却することで、以前より多くの重油等を使うので、脱炭素の流れに逆行することから、行政主導で脱炭素社会、資源の有効化等を進めてほしい。</li> <li>・CO<sub>2</sub>削減に大いに寄与しているバイオマス発電を止めるのは反対。</li> </ul>	<p>今後においては、可燃ごみの半分を占める紙類の再資源化を進めることにより、全体として脱炭素政策を進めていきます。なお、ごみの焼却処理ではCO<sub>2</sub>が排出されますが、生ごみの焼却は、植物により大気中から既に吸収されたCO<sub>2</sub>が再び大気中に放出されるとの考えから、国が行うCO<sub>2</sub>排出量には計上されません。</p> <p>さらに、可燃ごみを焼却する場合は、これまでも焼却運転開始前に焼却炉内温度を予め焼却に適した温度まで上昇させていまして、焼却運転中は基本的に燃料は使わずにごみの燃焼エネルギーにより燃やし続けることが可能となります。このため、生ごみ焼却によって燃料を多く必要とすることはなく、燃料増加によるCO<sub>2</sub>排出量の増加はほとんどないと考えます。</p> <p>また、バイオマス資源化センターは、運営にメタン発酵(バイオマス発電)による再生可能エネルギー電力等を使用しており、使用電力量と発電電力量を比較すると、バイオマス発電をやめることによるCO<sub>2</sub>削減への影響はさほど大きくありません。</p>	12
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみからできた堆肥は、有機肥料で安全で安価な肥料であり、大変役に立ち、有効に使っている。今後も生ごみは堆肥化し有効活用してほしい。</li> <li>・液肥にしなくても鹿児島県大崎町のように堆肥化する方法も模索してほしい。</li> <li>・生ごみは本来、土に還るものであり、様々な方法で土に還すことで、土を豊かにできる。肥料も高騰しているため、窒素、リン酸、カリウムという栄養素を市内で生み出すことは長い目で見て、持続可能な農業のためにも有効だと考えられる。</li> <li>・空いている堆肥舎を利用して、分散して堆肥づくりを行うなど、行政だけでなく、市民との協働プロジェクトとして、取り組んでほしい。</li> <li>・一方で、専業農家では化学肥料等を使い、短期間で栽培している現状をみると、減農薬、有機栽培を求めることに無理があるとも考える。</li> </ul>	<p>生ごみの新たな堆肥化施設建設には、建設地周辺への臭気問題等の発生や堆肥供給先の確保など、様々な問題がありますので、実施することは困難と考えています。</p> <p>また、これまで市内の畜産農家においても、バイオマス資源化センターで処理していない家畜糞尿については、各自の堆肥施設等で堆肥化を行っています。</p> <p>市では、引き続き、集落営農組織や農業者が購入する畜産堆肥代等に補助を行うことで、畜産堆肥の利用推進に取り組んでいます。なお、現在、各酪農団地に整備しています堆肥センター(10箇所)につきまちは、使用していない空き施設は無い状況です。</p> <p>市としましては、引き続き、生ごみ分別にご協力いただける市民の皆様に、今後は、家庭や地域での生ごみのコンポスト(堆肥)化を推進するための新たな補助制度等の創設を検討しています。</p>	
11	堆肥化 資源化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみを使った畑づくり講座「菌ちゃん野菜づくり」のような講義を行い、市民農園などで実践してほしい。</li> <li>(「菌ちゃん野菜づくり」とは、現在、ひかりこども園や森のようちえんおひさまのはら、北友田3丁目集会所などで子どもたちと取り組んでいる行事。子どもにとっては循環を身近に感じることができる取り組みで、前津江町では、過去12回ほど開催したが、市外の方の参加も多く、関心は高まっている。)</li> </ul>	<p>現在、前津江地域の団体の皆さんが「菌ちゃん野菜づくり勉強会」や自家製堆肥を使った野菜づくり、併せて「まえつえおやさい」のブランド化や加工品づくり、高齢世帯への配食サービス等、地域活性化の活動に取り組んでいます。今年度から、市・県も活動支援を行っており、引き続き、連携した取組をしていくこととしています。</p> <p>市としましては、引き続き、生ごみ分別にご協力いただける市民の皆様に、家庭や地域での生ごみのコンポスト(堆肥)化を推進するための新たな補助制度等の創設を検討しています。</p>	
12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環型地域社会の構築として、山形県長井市でのレインボープラン「台所と農業をつなぐながい計画」を参考に、引き続き堆肥を活用した「日田式循環型有機農業」を官民あげて取り組んでもらいたい。</li> <li>・「日田式循環型有機農業」について、今後の展開を伺いたい。</li> <li>・オーガニック給食に賛成。</li> <li>・高額な予算で発電施設を修復できないのであれば、既存の施設で堆肥化し、アップサイクルを売りに普及させていくのが良いと思う。農協など各団体の協力が必要になるかもしれないが、有機栽培に取り組みたい新規就農者への提供や、街の緑化・学校や福祉施設の花壇や畑の土作りなどに生かしていけないか。</li> </ul>	<p>市では、畜産農家や耕種農家、農業団体等の関係機関で組織する「日田式循環型農業推進協議会」において、畜産堆肥の利用促進及び自給飼料の生産拡大等の活動に取り組んでいます。今後も、畜産農家が生産した良質な堆肥を活用した土づくりを行い、減化学肥料による安心・安全な農産物の生産や、牧草等の飼料生産を基軸とした耕畜連携による循環型農業の実現に向けて推進していきます。</p> <p>オーガニック給食については、有機農業者を増やす取組と、学校給食における地産地消を推進する取組の2つの観点から取り組んでいきたいと考えています。</p>	25
13		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみは早期に堆肥化しないと一連のサイクルとして長続きしない。</li> </ul>	<p>生ごみについては、引き続き、分別にご協力いただける市民の皆様には、家庭でのコンポスト(堆肥)化を推進するための新たな補助制度等の創設を検討していきます。</p>	

No	項目	意見の概要	意見に対する市の考え方 (考慮した結果及びその理由)	
14	堆肥化 資源化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在市内に8箇所ある牛糞堆肥化施設の一つを生ごみとの混合堆肥化施設としてリニューアルするという選択肢はないか。</li> <li>・おが屑と竹粉を、混ぜた中に生ごみと牛糞を投入し、これに少量の酵素を入れて攪拌し数日間すると約80℃で発酵し、雑菌が死滅して良質の堆肥ができると聞いている。現在市内に8箇所ある牛糞堆肥化施設(所有者と協議必要)、各振興局に「食品残渣堆肥化センター」を建設し、日田式循環型有機農業の再構築を進めるために、まずは、数か所で実証実験を行ったらどうか。</li> </ul>	<p>生ごみの新たな堆肥施設や食品残渣堆肥化センター建設には、建設地周辺の臭気問題の発生や堆肥供給先の確保のほか、建設費用、施設及び堆肥を管理する人員の配置・確保など、様々な問題がありますので、実施することは困難と考えています。</p>	
15		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの分別でたい肥化を希望する市民の受け皿として、非耕作地を市が借り受けて希望者に無償で貸し付ける制度を提案する。</li> </ul>	<p>市では、市民の皆様による生ごみの処理を支援していく考えであり、今後は、家庭や地域での生ごみのコンポスト(堆肥)化を推進するための新たな補助制度の創設や自家製堆肥の普及促進につながる取組を検討していきます。</p> <p>また、生ごみの分別で堆肥化を希望する市民の受け皿として、非耕作地を活用することなど、いただいた意見は、他市の取組事例を踏まえ、今後の事業を検討する中での参考とさせていただきます。</p>	
16		<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、各家庭がごみを減らす努力が必要。生ごみも各家庭で堆肥化し、家庭菜園で野菜を育てることも普及させてほしい。国からの補助金で堆肥場をつくれないうか。</li> <li>・小さな規模でも生ごみを堆肥化する設備を設けてはもらいたい。</li> </ul>		
17	教育的効果 教育遺産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、生ごみを有効活用し資源として分別収集してきたことは、子供たちにとって教育的な効果もあったと思うから、生ごみ焼却は残念である。</li> <li>・循環型社会を目指す取組を展開できれば日田市民として誇らしい</li> <li>・日田市の子供たちに誇れる事業(生ごみ資源化)を続けてほしい。</li> </ul>	<p>循環型社会の形成に向けた子どもたちへの環境教育については、今後とも教育委員会と協力して継続していきます。特に、「菌ちゃん野菜づくり勉強会」のような取組を拡げ、生ごみの分別による家庭や地域での堆肥化に子どもたちが関われる機会を作っていきます。</p>	5
18	川の汚染	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前のように「牛豚糞尿」の処理を業者に任せると川が汚れてしまうのではないか。</li> </ul>	<p>現在、牛糞尿は全部、豚糞尿も一部は自家処理を行っており、河川の汚染は生じていないが、河川等の水質汚濁防止については、引き続き、畜産農家が責任をもって糞尿の処理を行うよう市が指導していくとともに、河川の水質検査を定期的に行うなど、適切に対応していきます。</p>	1
19	バイオマス資源化 センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止理由のなかに、年間点検整備費が約1億円、年間維持費が約1.5億円必要とあるが、当初からその程度の金額は必要だと分かっていたはずであり、何らかの理由で大幅に増えたのならその内訳や対応策等も納得できるように説明が欲しい。また、現施設に欠点があるのであれば、新清掃センターに併設することを何故考えないのか？</li> </ul>	<p>平成18年に設置されたバイオマス資源化センターは、当時は全国でも稼働事例が少なく、バイオマス系廃棄物の処理ノウハウも十分に確立されていない中、先進的に建設された施設でした。しかしながら、建設費を大幅に抑える必要から、処理システムを1系統のみとしたため、経年とともに生じる施設内設備の更新に加え、想定を超える機器の劣化や故障による改修費用が年々高額となり、更に、施設を長期間停止して補修・点検等を行うことが困難な状況となっています。</p> <p>そのため、バイオマス資源化センターの代替策として、これまで長期間議論してきました「地域資源リサイクルシステム」の最終的見解をまとめるために組織されました市長直属の「特命チーム」で検証・協議を重ねたことに加え、外注による当該システムに係る概算事業費の算定結果が本年3月末に判明したことを受け、工事費用面・人員配置等、市の将来の財政運営を考慮した結果、「バイオマス資源化センター」、「地域資源リサイクルシステム」及び「新清掃センター」の一体的見直しによる、生ごみ焼却の判断に至ったものです。</p> <p>また、今後、市においては、度重なる災害への復旧・復興に加え、新清掃センターの整備(建設・運営で約200億円以上)のほか、受入れ可能な埋立ごみ量が上限に近づいている最終処分場の新たな建設に向けた取組も控えていますので、バイオマス資源化センターを引き続き、運営していくことは、困難と判断しました。</p>	1
20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス資源化センターの液肥を、旧郡部でも配布用にタンクで設置してもらい、定期的に畑に活用しているため、生ごみの資源化を継続してほしい。</li> </ul>	<p>バイオマス資源化センターは、経年とともに生じる施設内設備の更新に加え、想定を超える機器の劣化や故障による改修費用が年々高額となり、更に、施設を長期間停止して補修・点検等を行うことが困難な状況となっているため、令和8年11月のFIT(再生可能エネルギーの固定価格買取制度)契約終了を目途に廃止する考えです。</p> <p>このため、生ごみを資源化した液肥の生産を維持することは、困難と考えています。</p>	1

No	項目	意見の概要	意見に対する市の考え方 (考慮した結果及びその理由)	
21	バイオマスタウン構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス資源化センターを廃止する方向で動いているようであるが、「バイオマスタウン構想」はどのようなのか。安心安全な食料や豊かな自然環境が身近な地域にあることは都市部住民憧れとなるため、バイオマスタウン構想を市政の中心に据え、ネットを使って全国にPRすべきである。</li> <li>・「バイオマスタウン構想」について、今後の展開を伺いたい。</li> </ul>	<p>バイオマスタウン構想は、バイオマス資源化センター建設に際し、平成18年に策定したもので、施設稼働以降、一定の成果を挙げたと考えています。</p> <p>時代の変化や環境技術の進展等を踏まえ、バイオマスタウン構想を発展的に見直し、地域資源リサイクルシステムを推進するために、令和4年に「日田市バイオマス活用推進計画」を策定しました。現行計画の主な取組としては、①浄化センターでの集約処理、②木質系バイオマスの活用、③家畜糞尿の堆肥化などとなっています。</p> <p>しかしながら、今回の生ごみ焼却を含めた一体的見直しにより、本計画を再び見直し、本市の今後10年間のごみ処理の基本方針となる「日田市一般廃棄物処理基本計画」の策定を予定しています。</p>	2
22	方針決定プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ焼却などの基本方針の変更の一部を関係者だけで短期間に決めていくことは、日田市基本条例にも反していると考えます。</li> <li>・生ごみ焼却については、市の庁内で深い議論をしたのか。</li> <li>・単純に生ごみ焼却の決断に納得できないため、日田市民みんなが納得する手順を踏んでほしい。一体どのくらいの日田市民が生ごみ焼却の情報を知っているのか疑問である。</li> <li>・生ごみ焼却だけでなく、生ごみ堆肥化工場という選択肢を示さないままパブリックコメントすることはおかしい。</li> <li>・今回の件に関して、焼却在りきでの検討や一方的な進め方では無い、市民協力の再検討委員会の設置を強く求めます。</li> <li>・意見募集となっているが、「生ごみの分別収集を廃止する」は、実際は決定事項のように感じられる。</li> </ul>	<p>市の生ごみ焼却方針の決定においては、これまで数年にわたり庁内において議論が進められてきました「地域資源リサイクルシステム」の最終的見解をまとめるため、市長直属組織となる「特命チーム」を本年1月に設置して、システム導入にあたっての効果と課題について検討・協議を重ねてきました。「特命チーム」での協議過程では、バイオマス資源化センター廃止後の跡地に堆肥化施設を建設する案など、想定される全て条件等を洗い出し、議論が行われましたことに加え、外注による地域資源リサイクルシステムに係る概算事業費の算定調査を行い、その結果が3月末に判明したを受け、工事費用面・人員配置など、市の将来の財政状況を考慮した結果、最終的に生ごみ焼却による「バイオマス資源化センター」、「地域資源リサイクルシステム」及び「新清掃センター」の一体的見直しの判断に至ったものとなります。</p> <p>今回の市の方針決定後、生ごみ焼却を行うことになり新清掃センター建設地及び現清掃センターの各周辺自治会等に、今年5月から8月にかけて説明会を12回開催(参加者209名)し、その後、市民の皆様のご意見を伺うためのパブリックコメントを実施しまして、いただいたご意見やご要望を踏まえ、今後は、市として対応していかなければならない施策の整理を行うこととしています。</p> <p>最終的には、廃棄物処理法に基づき、本市の今後10年間のごみ処理の基本方針を示す「日田市一般廃棄物処理基本計画」を令和6年度中に策定しまして、生ごみの焼却と、バイオマス資源化センターの廃止方針のほか、し尿・浄化槽汚泥等の生活排水処理なども合わせて見直すこととしています。なお、改訂に当たっては、日田市一般廃棄物処理基本計画策定委員会や日田市環境審議会において、審議していただくこととしております。</p>	5
23		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の環境課職員をこの春の人事異動で総入れ替えがされたというのは本当か？また、それはこの件に関係しているか？</li> <li>・最低限生ゴミ分別は活かしていく方向で何年も検討されてきたと思うが、その関係の職員が課から居なくなったことは、今回の廃止方向に大きく影響しているのではないか？</li> </ul>	<p>人事異動は、市役所全体の組織の活力を維持する上で、業務量に応じた人材配置や人材育成に加え、必要な新陳代謝を図るためのものです。</p>	1
24		<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止するバイオマス資源化センターの設備を民間への払い下げ等で有効利用は出来ないか。</li> </ul>	<p>バイオマス資源化センター廃止後の施設の再利用については、施設の経年劣化による機器の腐食や、豚糞尿に含まれる豚毛等による配管の閉塞などから、設備を別の用途で活用することや民間に払い下げすることは、非常に困難と考えており、廃止後は、周辺住民との協議を行いながら、施設撤去も含め、適切な処分を検討していきます。</p>	10
25	今後の対応等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何年もかけて検討されてきたと思うが、かけるはずだった予算がもしゼロになった場合、それはどこにまわす予定か。</li> <li>・大山の最終処分場の使用期限が10年というのは今初めてわかったことでは無いと思うため、そこを予算削減の根拠にするのはおかしいと思う。</li> </ul>	<p>今後、市においては、度重なる災害への復旧・復興に加え、新清掃センターの整備(建設・運営で約200億円以上)のほか、受入れ可能な埋立ごみ量が上限に近づいている最終処分場の新たな建設に向けた取組も控えていますので、市の将来の財政状況を考慮しながら、引き続き、市の環境施策を総合的・計画的に推進していく考えです。</p>	
26		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス発電を止めるにしても、生ごみ分別収集は残すべきである。より安価な堆肥化プラントの建設もある。</li> <li>・生ごみの分別を徹底し、これまでのように、生ごみだけポリバケツや金網の大型ごみステーションに出すよう徹底してほしい。</li> </ul>	<p>今までは市が一括して生ごみを収集・運搬・処分してきましたが、今後は、家庭や地域での生ごみのコンポスト(堆肥)化を推進するための新たな補助制度等の創設を検討しています。</p> <p>一方で、仮に堆肥化施設の建設には、建設地周辺の臭気問題の発生や堆肥供給先の確保のほか、建設費用、施設及び堆肥を管理する人員の配置・確保など、様々な問題がありますので、実施することは困難と考えています。</p>	2
27	ごみステーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ荒らしが懸念。今まで荒らされにくいコンテナにおさまっていた生ゴミが燃えるゴミの袋に混ざると、カラスや野良猫、その他の野生動物に荒らされるようになる。</li> </ul>	<p>カラスや野良猫等による生ごみ荒らしについては、ネットをかぶせる等の対策をお願いしているところです。また、市では、ごみステーションの金網等のボックスを新たに購入する際の補助金制度がありますので、ご活用ください。</p>	4

No	項目	意見の概要	意見に対する市の考え方 (考慮した結果及びその理由)	
28	住民説明	・ごみ問題は、住民に大事な問題のため、担当者が出向いて説明するなど、きめ細かい対応が必要と考える。	今回の一体的見直しに際し、新清掃センター及び現清掃センターの各周辺自治会等へ説明会を、本年5月及び8月に12回開催（参加者209名）しまして、多くのご意見をいただきました。もし、ごみ分別の説明会の開催を希望される自治会等がございましたら、市職員を派遣して、説明会を開催いたしますので、是非、お問い合わせください。	1
29	ごみ排出	・一人暮らしのため、可燃ごみの量は少なく2～3週間に1回、収集日に出すが、生ごみは自炊するため、週2回出している。今後、単身生活者はどうごみ出しすればよいのか。	生ごみの処理については各家庭においてコンポストの利用のほか、電気生ごみ処理機で乾燥させるなどの処理をすることで、生ごみを減らし、臭気をなくすることができます。そのため、市では、家庭での生ごみのコンポスト(堆肥)化を推進するための新たな補助制度等の創設を検討しています。	1
30		・ごみの分別が細分化から、大分別化される方向性に変化されることへの懸念を感じる。	市では、生ごみ以外のごみの分別について、現在のところ、変更する計画はありません。	1
31		・有料のゴミ袋に生ごみを入れるのに抵抗感がある。今のゴミ袋が大・中・小と有料なので、生ごみ専用の袋を同様に販売してほしい。 ・かつてバイオマス資源化センターに出入りしたことがあるが、当時から貝殻の混入や豚の糞尿の水分の多さが問題になっていた。 ・生ごみは、ほとんどの家庭がビニール袋を使用していると思うが、出来るだけ水分を減らすために袋の底に何か所か切れ込みを入れると良い。	現在の指定袋は、燃やせるごみ袋と不燃ごみ袋をそれぞれ用途に合わせた素材で作成し、大・中・小の3種類の大きさで販売しています。現在のところ生ごみ専用指定袋の作成の予定はございませんが、今後改善すべき必要が生じた場合は、皆様のご意見をいただきながら検討していきます。 生ごみを指定袋に入れる場合は、十分に水切りをしていただいたり、今後においては電気生ごみ機で乾燥させる等の処理をして排出していただくことを推奨していくよう、購入費の補助制度等の創設を検討していきます。	3
32	生ごみ処理機	・生ごみ処理機のデメリットは、購入価格が高いこと。また、電気タイプはコストがかかること。 ・家庭で電気式の処理機を使うことは、消費エネルギー増加につながるので、環境面であまり良くないと感じる。	電気を使用しない生ごみ処理機のほかに、電気式のものの中には、省エネタイプもございます。皆さんの好みに合ったものを広く選択できるような補助制度を検討していきます。	2
33	コンポスト補助金	・補助金だけでなく、ダンボールコンポストや、キエーロなど、畑を持たない方向けの生ごみ処理道具の貸与や、使い方講座の実施をお願いしたい。 ・試しに、生ごみ処理機のデモ機を使わせてみたらどうか。	各家庭・地域の状況に合ったコンポストの種類が選択でき、また、利用しやすい補助制度の創設に向け検討してまいります。更に自家製堆肥の普及を促進するため、堆肥づくり講座に加え、野菜や花づくりの講座を開催するとともに、広報誌やホームページでの啓発などを進めます。	17
34		・コンポストといった、電気『生ごみ』処理機は高額だが、補助金があれば使い続けられる。 ・海外では国で家庭でのコンポスト義務化が進んでいるところもあり、日本でも手軽でおしゃれなコンポストがある。家庭や学校など、コンポスト推進も有効的だと思う。 ・土を触っていく事で、市民一人ひとりの環境への意識、自然を大切に想う気持ちも育まれていくのではないかと。たくさんの市民に普及させてほしい。		
35		・自治体によって異なるが、購入金額の1/2～1/3以内、限度額を2万～3万円までとする自治体が多い。住民は、助成金制度を上手に利用すると、処理機を安く購入できる。 ・コンポストを利用すれば、キッチンの生ごみ悪臭対策など、家中に漂う生ごみの匂いが無くなる。生ごみの置き場所に困らず、キッチンシンクのぬめりや三角コーナーが汚れなく清潔に保てる。		
36		・生ごみ処理機(電気式)の耐用年数は、5年のため、購入時だけでなく、耐用期間終了後の分も含めて、補助金等で対策しなければならない。 ・コンポストを2つ設置して交互に利用している。		
37		・コンポスト補助金は賛成だが、設置できるスペースを持つ家庭や、一般に数万円する生ゴミ処理機を購入でき、電気代の増加も気にならない経済的余裕のある家庭に利用に限られるため、利用数はあまり増えないと思う。 ・住宅地に畑のない人や、アパート・マンション住まいの人は利用できないので、コンポスト数はあまり増えないと思うが、補助金は賛成する。		
38		・コンポストを長年使っているが、良好な堆肥にするのは難しい。市報で上手な方法を教えてほしい。		
※意見書 設問2,3：コンポスト等の処理ツールについて【反対43名のうち、26名がコンポストや生ごみ処理機使用希望(使用済含む)】				